

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 1 区分
 【発行日】平成 18 年 1 月 5 日 (2006.1.5)

【公表番号】特表 2005-514948 (P2005-514948A)
 【公表日】平成 17 年 5 月 26 日 (2005.5.26)
 【年通号数】公開・登録公報 2005-020
 【出願番号】特願 2003-562288 (P2003-562288)
 【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

A 6 1 K 31/7088 (2006.01)

A 6 1 K 48/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

A 6 1 K 31/7088

A 6 1 K 48/00

A 6 1 P 35/00

【手続補正書】
 【提出日】平成 17 年 11 月 10 日 (2005.11.10)
 【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

二重特異性アンチセンスオリゴヌクレオチドであって、本質的に、全ての該オリゴヌクレオチドはヒト I G F B P - 2 をコードする遺伝子の一部に相補的であり、本質的に、全ての該オリゴヌクレオチドはヒト I G F B P - 5 をコードする遺伝子にも相補的であり、かつ該オリゴヌクレオチドはヒト I G F B P - 2 およびヒト I G F B P - 5 のアンチセンスインヒビターとして作用するのに十分な長さである、二重特異性アンチセンスオリゴヌクレオチド。

【請求項 2】

該オリゴヌクレオチドは本質的に、配列番号 1 に記載される一連の塩基からなる、請求項 1 に記載のアンチセンスオリゴヌクレオチド。

【請求項 3】

該オリゴヌクレオチドは、本質的に、配列番号 2 に記載される一連の塩基からなる、請求項 1 に記載のアンチセンスオリゴヌクレオチド。

【請求項 4】

該オリゴヌクレオチドは、本質的に、配列番号 3 ~ 7 のいずれかに記載される一連の塩基からなる、請求項 1 に記載のアンチセンスオリゴヌクレオチド。

【請求項 5】

該オリゴヌクレオチドは、配列番号 1 に記載される一連の塩基からなる、請求項 1 に記載のアンチセンスオリゴヌクレオチド。

【請求項 6】

該オリゴヌクレオチドは、配列番号 2 に記載される一連の塩基からなる、請求項 1 に記載のアンチセンスオリゴヌクレオチド。

【請求項 7】

該オリゴヌクレオチドは、本質的に、配列番号 3 ～ 7 のいずれかに記載される一連の塩基からなる、請求項 1 に記載のアンチセンスオリゴヌクレオチド。

【請求項 8】

内分泌調節性癌の治療用の薬剤組成物の製造方法であって、請求項 1 ～ 7 のいずれか 1 項に記載の二重特異性アンチセンスオリゴを、静脈内、腹腔内、皮下または経口投与のための薬剤学的に許容しうる担体と組合せる工程を含む製造方法。

【請求項 9】

内分泌調節性癌に罹患している対象における内分泌調節性癌の治療用の薬剤組成物の製造方法であって、請求項 1 ～ 7 のいずれか 1 項に記載の二重特異性アンチセンスオリゴを、静脈内、腹腔内、皮下または経口投与のための薬剤学的に許容しうる担体と組合せる工程を含む製造方法。

【請求項 10】

癌は前立腺癌である、請求項 9 に記載の製造方法。

【請求項 11】

癌は乳癌である、請求項 9 に記載の製造方法。

【請求項 12】

請求項 1 ～ 7 のいずれか 1 項に記載のアンチセンスオリゴヌクレオチドと薬剤学的に許容しうる担体を含む、薬剤組成物。